

陳 情 文 書 表

(都市計画局)

受 理 番 号	2 9 0 8	受 理 年 月 日	令 和 4 年 5 月 16 日
件 名	北山エリア整備基本計画の見直し等		
要 旨	<p>私たち左京区下鴨地域（葵・下鴨・松ヶ崎学区）の住民は、静かで学術文化の薫るこの地域を愛し、父母の時代からここに住んできた。</p> <p>ところが、2020年12月に京都府が北山エリア整備基本計画を発表し、府立植物園、府立大学、総合資料館跡地などの文教地区を大きく改変しようとしている。その計画では、以下のように、この地域をにぎわいの祝祭空間にし、植物園を削り、大学内外に商業的な施設を造ることが書き連ねてある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 京都府立大学（全学生約2千人）の老朽体育館を建て替える代わりに、1万人規模のアリーナ（共同体育館）の建設が掲げられている。府立大の教育・研究活動に大きな障害が生じるのではないかと思われる。 2 府立植物園の垣根を取り払い、人流を呼び込み都市公園化され、生きた植物の博物館としての植物園が破壊されて、生物多様性、希少な植物が危うくなりそうである。植物園は希少な植物を育成・保存するために、また、犬・猫・鹿の害、盗掘の可能性を防ぐために、しっかりとした囲いが必要である。大芝生に野外ステージを造る計画もあり、鳥の声、虫の声、風の音が消されようとしている。 3 総合資料館跡地には、シアターコンプレックス以外に商業施設・会議施設とホテルの建設が企図されている。これらの施設は、巨大アリーナ（観覧場）と共に、京都市の都市計画の用途指定に違反している。 <p>さらに、本年3月10日に公表されたKPMGが府に提出した北山エリア整備事業手法等検討業務報告を見ると、府立大学の中心を埋め尽くす巨大なアリーナの建設が明示してある。そうなれば、その観客や競技団体関係者が毎週末に押し寄せ、多くの車や大型バスが地域にあふれ、周辺住民の生活環境に重大な影響が生じるとと思われる。工事期間も5年程度が予定され、閑静な住宅地が破壊されるのではと危惧される。</p> <p>これらの声は、2021年11月に持たれた京都府による説明会（約500名の参加者）でも、発言者のうちほとんどの参加者が計画の見直し、撤回を主張されたことにも反映されている。</p> <p>ところが、京都市は、2021年4月に京都市都市計画マスタープランに北山文化・交流拠点地区を追記し、京都府の整備基本計画を追認している。この計画の追記は、私たち下鴨地域や上賀茂地域の住民には何の説明もなく、多くの住民の声を無視したものとなっている。</p> <p>ついては、以下のことを願う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 京都市が、この京都府の整備基本計画を見直すことを京都府に進言すること。 2 京都市のマスタープランから北山文化・交流拠点地区を削除すること。 3 北山エリアのまちづくりについて、周辺住民や広く市民の声を聴く場を設けること。 		
陳 情 者			
回 付 委 員 会	まちづくり委員会		